

二〇一五年一月一六日

曇天へ千手を翳す大枯木
山家みな長者の構へ能勢時雨
降りやまぬ色葉の杜に地蔵堂
鴨遠く鳴きて昆陽池ただ広し
紅葉影抱擁したる一碑かな
寺苑統べ黄落やまぬ大公孫樹
どんぐりの散らばつている彈葉庫
拾ひたる吾が手に余る朴落葉
百幹の竹も鎮もる寺の秋
四国見ゆ紀淡海峡小春嵐
あたたかや子の手を杖に磴下る
山号を読みて紅葉の門くぐる
小春日のシャワーをなせる竹の径
秋草に囲まれ秘そと牛魂碑
辰鼓樓裳裾を飾る照紅葉
城塁にアートをなせる薦紅葉
時世句碑古りてかつ散る紅葉かな
うつぎ
康子
もとこ
康子
澄子
やよい
康子
澄子
むべ
康子
澄子
やよい
康子
澄子
むべ
康子
澄子
やよい
康子
澄子
むべ
康子
澄子
うつぎ
康子
わかば
ぽんこ
なつき

定例WEB句会みのる選

二〇一五年一月一六日